

# 平成27年度「自己評価」 結果公表シート

学校法人 善行学院  
善行森の幼稚園

当園ではこの度、平成27年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及び、アンケートを実施いたしました。教職員自己評価では、教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を客観的に振り返ることにより、自身や園全体を見つめ直す非常にいい機会となりました。今年度のアンケートの結果及び、教職員自己評価の結果を活かし、来年度以降の更なる教育活動の充実、教職員の資質向上に努めていきたいと考えております。

## I. 園の方針

<p><b>保育方針</b></p> <p>森の幼稚園は、毎日の生活の主役が子どもたちです。</p> <p>一人ひとりが自分で考え、行動し、その子なりの歩みで、一步一步成長していき多くの人と関わりながら自分を創っていくことができるよう、一人ひとりの子ども達を見守っていきます。</p> <p><b>特色</b></p> <p>①モンテッソーリ教育</p> <p>同じ年齢であっても発育や発達状態に大きな差のある子ども達。 「モンテッソーリ教育法」を指針とし、それぞれの発達や発育状態にあった保育を目指しています。</p> <p>②異年齢混合クラス</p> <p>3歳、4歳、5歳の異なった年齢の子どもたちが同じ部屋で生活することにより、大きい子なり、小さい子なりの人間関係を学んでいきます。集団生活における様々なことを「見て学ぶ、一緒にやってみる、教えて学ぶ」ことができます。</p>
--

## II. 今年度の重点目標

<p>本園の保育方針や特色を守りつつ、これまでの評価によって出てきた改善点と向き合い向上心をもって保育を行っていく。その為に、職員間のコミュニケーション、保護者とのコミュニケーションを大切に、改善点発見のための研修を実施する。また保護者アンケートを実施することにより、保護者の方から見た際の改善点を伺う。</p>
--

## III. 評価項目と取組み状況

重点目標	取組み内容	取組み状況
1 改善点の発見	(自己評価アンケート) 園内の全ての先生に対して、学校評価項目の点検アンケートを行い、改善点を見つけ出す。	A 文科省の学校評価ガイドラインから抽出した100項目に関して、教員にアンケートを行った。アンケートの平均点と、園長の付けた点数とを比較し、ギャップが大きい箇所を課題と捉え、次年度以降重点的に取り組むこととした。
	(保護者アンケート) 保護者の方に、保育参観の感想や各行事の感想、連絡帳によるご意見を伺い、また新入園児の家庭へのアンケートを実施し園への期待や満足度、問題点を見つけ出す。	A 保育参観、行事のたびに保護者から感想をいただいた。全体的には保護者の方に満足いただいていたが、細かな改善点・問題点を多数指摘いただいたため、実施出来るものから随時取り組むこととした。また次年度の行事日程をたてる際の参考にもした。
	(問題発見型研修) 外部の講習会に参加し、他園の状況や問題点を共有し、自園にあてはめて発見型の研修を行い、皆が意見を出しやすい環境を作る。	B 土曜日出勤の際に、教職員が園の課題を発見する研修を行った。目的は「研修に行ってきた学んだことのかち合い」や「行事の目的や準備・取り組み方について」であった。かち合いでは受講後の熱い思いを発表でき、研修の効果が続いたが、行事の時期等で忙しくなるにつれて、慣れや確認不足によるミスが出てきたことが反省としてあげられる。

### 【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取組みが不十分である

## IV. 今後取り組むべき課題

1	園内研修の充実	園長の考えとして、「幼稚園の教職員として、学び続ける姿勢が大事」であると本園では考えている。従来も研修の参加日数は非常に多かったが、受けっぱなしになってしまっていることもあった為、次年度からは外部研修で学んだことや気づいたことを、毎月の園内研修で発表して共有することとする。
2	来園者への対応	保護者の方とのコミュニケーションや、来園者の方への対応として、善行森の幼稚園全職員が笑顔と挨拶を心掛ける。明るい声での電話対応や地域の方々へのあいさつ、速やかな対応を目指し、園内にいらっしゃる方に対しても教職員から積極的に、声を掛けることで、コミュニケーションも生まれやすく、不審者対策にもなると考えている。
3	笑顔での対応	「場面を自分で判断して、適切な表情をつくる」については、教職員間のチームワークの向上とともに達成されつつある。子どもと向きあっている時の表情は適切な表情を作れるが、保護者会などでは緊張から表情が硬くなってしまうことがあるので、次年度以降もこの目標を掲げ、教職員一同努力していくこととする。